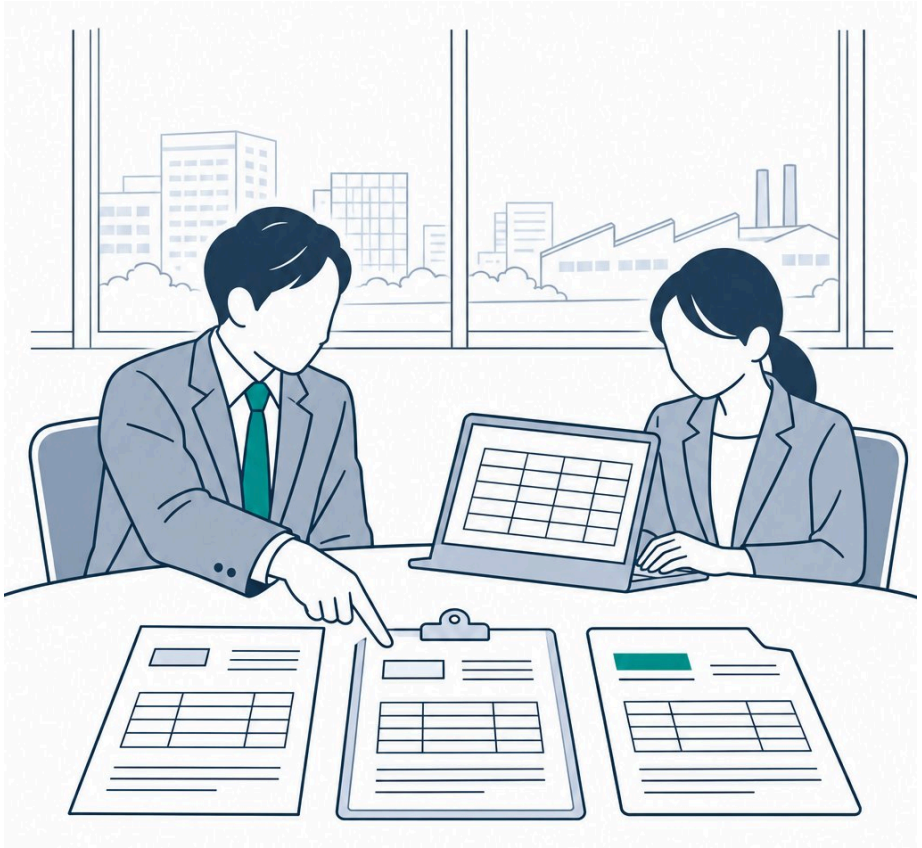
解説レポート｜全業種向け

# FDE型支援・社内FDE育成の選び方ガイド

費用、期間、常駐の有無、支援のあとに残るものの比べ方と、見積を比べるときに確かめる項目をまとめました

2026年11月版




株式会社AIworker

https://ai-worker.net/

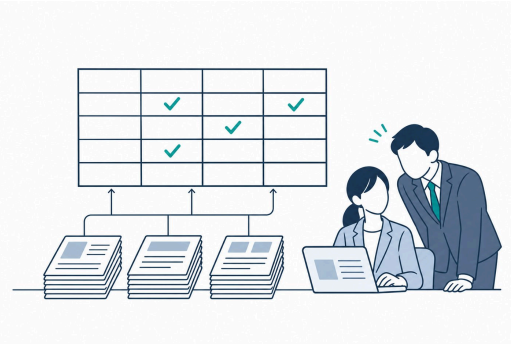
## 調査概要

| 項目 | 内容 |
| --- | --- |
| 種類 | 解説レポート（公的統計、公開されている料金の例、当社の支援事例をもとに整理） |
| 対象 | 年商30億円以上の会社の部長クラス、DX推進、人事・人材開発、情報システムの責任者 |
| 使った資料 | 情報処理推進機構（IPA）「DX動向2026」「DX動向2025」、2026年11月に発表された中小企業向けFDE型サービスの公表資料 |
| 当社の検証 | 架空の見積3社分と業務棚卸し表をAIツールで処理した結果（2026年11月に当社で実行） |
| 期間 | 統計は2024〜2025年度の調査結果です。当社の支援事例は2025〜2026年のものです |
| 発行 | 株式会社AIworker（2026年11月） |

FDEは英語の Forward Deployed Engineer の略で、顧客の現場に入り、課題を見つけるところから技術で解決するエンジニアを指します。本レポートでは、外部の会社のエンジニアがこの役割を担う支援を「FDE型の外部支援」、業務をよく知る自社の社員がAIで自部署の仕組みを作る形を「社内FDE」と呼んでいます。

## 01 3か月後、担当者の仕事はこう変わります

まず、依頼先選びがどう進むのかを、架空の担当者の例で見てみましょう。年商約150億円の卸売会社でDX推進室にいる森さんの手元には、AI活用の支援について3社の見積が届いています。ところが、月の金額が数倍違ううえに書き方もそろってい



ないため、どれが妥当なのか判断できずに2か月が過ぎていました。

| 時期 | 森さんがしていること | 周りで起きていること |
|---|---|---|
| 1か月目 | 社内の業務を棚卸しし、業務ごとに合う型を3つの質問で仕分けます。3社には同じ質問を送ります | 情報システム課に、セキュリティ審査の資料を契約前に渡します |
| 2か月目 | 回答をそろえた比較表をもとに、急ぎの照合業務を週1日現場に入る型に頼みます | 営業管理課の2名が、常駐の日に一緒に仕組みを作り始めます |
| 3か月目 | 1つ目の仕組みが動き、照合にかかる時間を導入の前後で測ります | 営業管理課の2名が、照合の決まりの変更を自分で直せるようになります |
| 4〜6か月目 | 購買と物流の業務を、社内FDE育成の題材に選びます | 基幹システムの更新に合わせた直しを、社員が自分で行います |

森さんの仕事は、見積を前に悩むことから、業務ごとに頼み方を決めて進み具合を確かめることに変わっていきます。なお、この例の人物と会社は説明のためのものであり、成果を約束するものではありません。実際の効果は、対象の業務の作業時間を導入の前後で測って確かめます。

## 02 実際に動かすと、こうなります

依頼先選びのどこまでをAIが手伝えるのかを確かめるために、当社で架空の見積を3社分用意して、AIツール（Claude Code）に処理を頼みました。3社の見積は、Wordの見積書、Excelのお見積り、メールの本文と形式をばらばらにしています。同じことを指す言葉も、「オンサイト支援」「常駐」「訪問は別途相談」のように各社で違う書き方にしました。

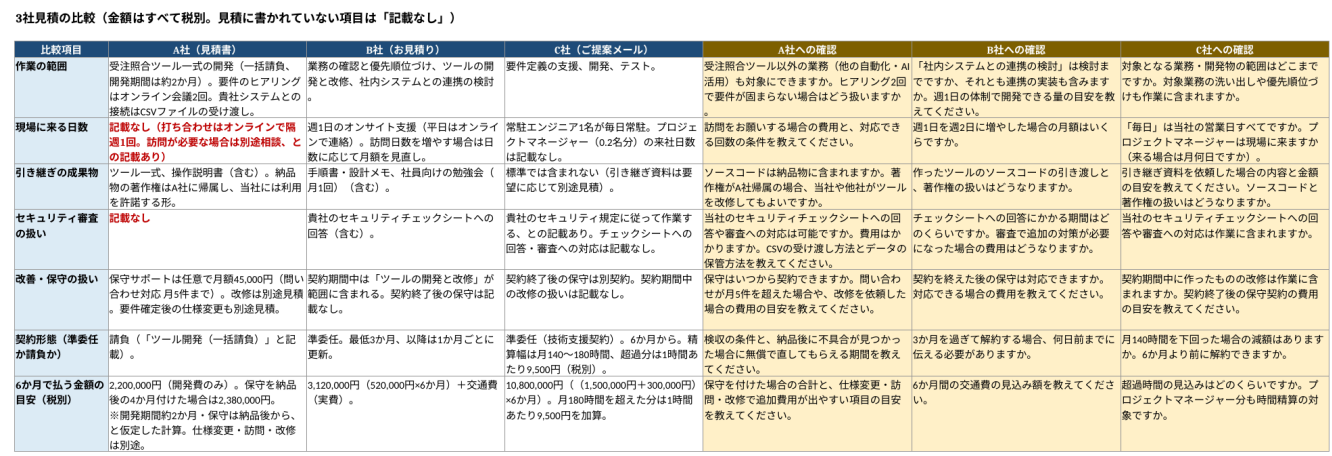



最初に頼んだのは、次の内容です。

> 「見積」フォルダにある3社の見積を読んで、同じ物差しで比べる表を「見積比較.xlsx」に作ってください。比べる項目は、作業の範囲、現場に来る日数、引き継ぎの成果物、セキュリティ審査の扱い、改善・保守の扱い、契約形態（準委任か請負か）、6か月で払う金額の目安です。見積に書かれていない項目は推測で埋めずに「記載なし」と書き、各社に確認する質問の列を足してください。

92秒で、次の比較表と、会社ごとの確認質問の一覧ができました（金額はすべて架空です）。

| 項目 | A社 | B社 | C社 |
|---|---|---|---|
| 現場に来る日数 | 記載なし（打ち合わせはオンラインで隔週1回） | 週1日 | 毎日 |
| 引き継ぎの成果物 | ツールと操作説明書（著作権はA社） | 手順書・設計メモ、勉強会 | 別途見積 |
| セキュリティ審査 | 記載なし | チェックシートへの回答を含む | 審査への対応は記載なし |
| 契約形態 | 請負 | 準委任 | 準委任 |
| 6か月の目安（税別） | 220万円（保守を付けると238万円） | 312万円と交通費 | 1,080万円と超過分 |



3社見積の比較（金額はすべて税別。見積に書かれていない項目は「記載なし」）

| 比較項目 | A社（見積書） | B社（お見積り） | C社（ご提案メール） | A社への確認 | B社への確認 | C社への確認 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 作業の範囲 | 受注照合ツール一式の開発（一括請負、開発期間は約2か月）。要件のヒアリングはオンライン会議2回。貴社システムとの接続はCSVファイルの受け渡し。 | 業務の確認と優先順位づけ、ツールの開発と改修、社内システムとの連携の検討。 | 要件定義の支援、開発、テスト。 | 受注照合ツール以外の業務（他の自動化・AI活用）も対象にできますか。ヒアリング2回で要件が固まらない場合はどう扱いますか。 | 「社内システムとの連携の検討」は検討までですか、それとも連携の実装も含みますか。週1日の体制で開発できる量の目安を教えてください。 | 対象となる業務・開発物の範囲はどこまでですか。対象業務の洗い出しや優先順位づけも作業に含まれますか。 |
| 現場に来る日数 | 記載なし（打ち合わせはオンラインで隔週1回。訪問が必要な場合は別途相談、との記載あり） | 週1日のオンサイト支援（平日はオンラインで連絡）。訪問日数を増やす場合は日数に応じて月額を見直し。 | 常駐エンジニア1名が毎日常駐。プロジェクトマネージャー（0.2名分）の来社日数は記載なし。 | 訪問をお願いする場合の費用と、対応できる回数の条件を教えてください。 | 週1日を週2日に増やした場合の月額はいくらですか。 | 「毎日」は当社の営業日すべてですか。プロジェクトマネージャーは現場に来ますか（来る場合は月何日ですか）。 |
| 引き継ぎの成果物 | ツール一式、操作説明書（含む）。納品物の著作権はA社に帰属し、当社には利用を許諾する形。 | 手順書・設計メモ、社員向けの勉強会（月1回）（含む）。 | 標準では含まれない（引き継ぎ資料は要望に応じて別途見積）。 | ソースコードは納品物に含まれますか。著作権がA社帰属の場合、当社や他社がツールを改修してもよいですか。 | 作ったツールのソースコードの引き渡しと、著作権の扱いはどうなりますか。 | 引き継ぎ資料を依頼した場合の内容と金額の目安を教えてください。ソースコードと著作権の扱いはどうなりますか。 |
| セキュリティ審査の扱い | 記載なし | 貴社のセキュリティチェックシートへの回答（含む）。 | 貴社のセキュリティ規定に従って作業する、との記載あり。チェックシートへの回答・審査への対応は記載なし。 | 当社のセキュリティチェックシートへの回答や審査への対応は可能ですか。費用はかかりますか。CSVの受け渡し方法とデータの保管方法を教えてください。 | チェックシートへの回答にかかる期間はどのくらいですか。審査で追加の対策が必要になった場合の費用はどうなりますか。 | 当社のセキュリティチェックシートへの回答や審査への対応は作業に含まれますか。 |
| 改善・保守の扱い | 保守サポートは任意で月額45,000円（問い合わせ対応 月5件まで）。改修は別途見積。要件確定後の仕様変更も別途見積。 | 契約期間中は「ツールの開発と改修」が範囲に含まれる。契約終了後の保守は記載なし。 | 契約終了後の保守は別契約。契約期間中の改修の扱いは記載なし。 | 保守はいつから契約できますか。問い合わせが月5件を超えた場合や、改修を依頼した場合の費用の目安を教えてください。 | 契約を終えた後の保守は対応できますか。対応できる場合の費用を教えてください。 | 契約期間中に作ったものの改修は作業に含まれますか。契約終了後の保守契約の費用の目安を教えてください。 |
| 契約形態（準委任か請負か） | 請負（「ツール開発（一括請負）」と記載）。 | 準委任。最低3か月、以降は1か月ごとに更新。 | 準委任（技術支援契約）。6か月から。精算幅は月140〜180時間、超過分は1時間あたり9,500円（税別）。 | 検収の条件と、納品後に不具合が見つかった場合に無償で直してもらえる期間を教えてください。 | 3か月を過ぎて解約する場合、何日前までに伝える必要がありますか。 | 月140時間を下回った場合の減額はありますか。6か月より前に解約できますか。 |
| 6か月で払う金額の目安（税別） | 2,200,000円（開発費のみ）。保守を納品後の4か月付けた場合は2,380,000円。※開発期間約2か月・保守は納品後から、と仮定した計算。仕様変更・訪問・改修は別途。 | 3,120,000円（520,000円×6か月）＋交通費（実費）。 | 10,800,000円（（1,500,000円＋300,000円）×6か月）。月180時間を超えた分は1時間あたり9,500円を加算。 | 保守を付けた場合の合計と、仕様変更・訪問・改修で追加費用が出やすい項目の目安を教えてください。 | 6か月間の交通費の見込み額を教えてください。 | 超過時間の見込みはどのくらいですか。プロジェクトマネージャー分も時間精算の対象ですか。 |

出典：見積/A社_見積書.docx、見積/B社_お見積り.xlsx、見積/C社_ご提案メール.txt
A社の6か月金額は、保守開始時期が見積に書かれていないため仮定で計算しています（「6か月金額の計算」シート参照）。
見積に書かれているその他の条件：A社は打ち合わせが隔週1回のオンライン、A社は納品物の著作権がA社帰属、B社は交通費が実費で別途。

AIが実際に作ったExcelです（データは架空）。記載のない項目を赤字にし、右の3列に各社へ確認する質問を並べています。

注目していただきたいのは、AIが表の読み方の注意も挙げてきたことです。たとえば、A社の6か月の金額は保守を始める時期が書かれていないため仮定で計算したこと、A社は請負でツールを1本納める契約なので、6か月間支援を受けるB社・C社と金額だけでは比べられないことです。さらに、3社ともソースコードの引き渡しが書かれておらず、特にA社は著作権がA社に残るので、あとで改修してよいかを聞く必要があるとも指摘しました。

続けて、架空の業務棚卸し表（8業務）と社内の方針メモを渡して頼んだのが、次の内容です。

> 「業務棚卸し.xlsx」と「社内方針メモ.docx」を読んで、業務ごとに「リモート中心で開発する型」「週1日現場に入る型」「毎日現場にいる型」「社内FDE（社員が自分で作る）」のどれが合うかを判定し、「依頼先の型の判定.xlsx」に保存してください。判定には次の3つの質問を使ってください。①

> 何を作るかが決まっているか ②支援のあとに社内で直せる人を残したいか ③複数の部署や社内システムとつなぐ必要があるか。判定の理由と、さきほどの見積比較から選ぶならどの会社が近いかの列を足してください。最終判断は担当者がするので「担当者確認」の空欄の列も足してください。

105秒で、8業務の判定が次のようにまとまりました。

| 判定 | 業務 |
|---|---|
| リモート中心で開発する型 | 受注データと出荷予定の照合、週次の売上報告の作成 |
| 週1日現場に入る型 | 請求書の仕分けと入力、問い合わせへの回答の下書き、受注の入力ミスの原因の集計 |
| 社内FDE | 見積を比べる表づくり、配送遅延の連絡文の作成、社内規程の問い合わせ対応 |
| 毎日現場にいる型 | 該当なし |

この判定でも、AIは自分の答えをそのまま信じないように注意を添えています。②の「直せる人を残したいか」はほとんどの業務で棚卸し表に書かれておらず、推測で埋めずに「記載なし」にしたことがその1つです。また、照合と入力ミスの集計は同じデータを使うので、2つをまとめて週1日の型に頼む案もあると書いてきました。社内規程の問い合わせ対応は、担当者が1人で何から始めるかも決まっていないため、社内FDEにするのは無理があるかもしれないとも指摘しています。

つまり、AIが作るのは比べるための材料と、各社に聞く質問の下書きです。どの型に頼むかを決めるには、業務の事情と社内の方針を知っている人の判断が欠かせません。なお、これは架空のデータを使った1回の結果です。実際の見積では書き方の幅が広がるので、AIの表は人が見積の原本と照らし合わせて使います。

## 03 なぜいま、外部支援の選び方で迷う会社が増えているのか

**85.5%**
DXを進める人材の量が足りない日本企業（2025年度）

**9割超**
従業員301人以上の企業で、人材の量が足りない割合

**4割弱**
主力の事業の開発で、外部委託が最も多い日本企業

**16.7%**
必要な開発を内製化済みの日本企業

出典：IPA「DX動向2026」「DX動向2025」。詳しくは本文と出典の章をご覧ください。

AIを業務に使う仕組みを作ろうとしても、社内に作る人が足りない会社が大半です。IPAの「DX動向2026」では、DXを進める人材の量が足りないと答えた日本企業は2025年度で85.5%でした（54ページ図表4-1）。「大幅に不足している」は50.1%で前の年度より減ったものの、不足していること自体は変わっていません。従業員301人以上の企業に限ると、足りないと答えた割合は9割を超えています（55ページ図表4-2）。

そのため、多くの会社は外部の力を借りて仕組みを作っています。「DX動向2025」によると、日本企業は主力の事業（競争の領域）の開発でも「外部委託による開発」が4割弱で最も多くなっています（42ページ 図表2-13）。一方で、システム開発の必要な部分を内製化済みの日本企業は16.7%で、米国・ドイツの半分以下です（43ページ 図表2-14）。内製化を進める際の課題では、「人材の確保や育成が難しい」が突出しています（45ページ 図表2-16）。

こうした中で、外部支援を「FDE」の名前で出す会社が増えてきました。ただ、同じ名前でも中身の幅は大きくなっています。2026年11月に発表された中小企業向けのFDE型サービスでは、開発が月33万円（税込）からとされています。一方で、エンジニアやコンサルタントが毎日現場に入る人月の契約は、当社が商談でお客様から伺う他社の見積の範囲で、1人あたり月100万〜200万円ほどが多い印象です。金額だけを並べると高いか安いかの話に見えますが、実際には買っているものが違います。次の章で、その違いを5つに分けて見ていきます。

## 04 費用に差が出る5つの理由

FDE型の外部支援の費用は、来る人の数だけで決まるものではありません。主に、現場にどこまで入り込むかと、支援が終わったときに御社に何が残るかで決まります。

| 理由 | 費用が上がる側 | 見積で確かめること |
|---|---|---|
| 1. 現場に来る日数 | 週1日、毎日と、現場にいる日が増える | 来る日数と、オンラインで対応する範囲 |
| 2. 業務の見直しから入るか | 何をAIにするかを一緒に決める段階から入る | 業務の確認と優先順位づけが作業に入っているか |
| 3. 残るものはシステムだけか | 社員が自分で直せる状態まで引き継ぐ | 手順書・設計の記録、ソースコードの扱い |
| 4. 規模、権限、セキュリティ審査 | 対象の部署が多い、社内システムとつなぐ、審査がある | 審査への対応と、つなぐ先のシステム |
| 5. 作ったあとの改善と定着 | 使ってみて出た不満を直し、使う人を増やすまで含む | 契約期間中の改修と、終わったあとの保守 |

いちばん大きいのは、現場に来る日数です。現場に来ると、担当者が毎朝手で直している表や、ベテランだけが知っている例外の決まりのように、打ち合わせでは出てこない話を拾えます。こうした話こそが、AIで直すべき作業の候補です。また、業務の見直しは費用を上げる理由である一方、使われない仕組みを作らないための手順でもあります。

残るものの違いが表れるのは、支援が終わってからです。システムを納品して終わる形であれば、業務が変わるたびに追加の開発を頼むことになります。社員が直せる状態まで引き継ぐ形では、教える時間と記録を残す時間が加わる代わりに、その後の追加の発注が減ります。さらに、大きな会社ほどつなぐ先のシステムと合意を取る相手が増えるので、審査や権限の調整に1か月かかった例もあるほどです。

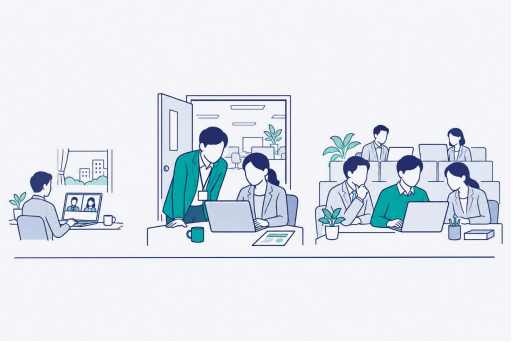
## 05 3つの型を比べる

5つの理由を組み合わせると、FDE型の外部支援はおおむね次の3つの型に分かれます。

| | リモート中心で開発する型 | 週1日現場に入る型 | 毎日現場にいる型 |
|---|---|---|---|
| 費用の目安 | 月30万円台から | 当社の場合は月35万円（税別）から | 1人あたり月100万〜200万円ほど |
| 現場への関わり方 | 打ち合わせとオンライン | 週1日現場に入り、ほかの日はオンライン | 部署に入り込んで毎日 |
| 向いている会社 | 作るものがほぼ決まっている | 何を作るかから一緒に決めたい | 急ぎの課題が多く、並行して作りたい |
| 終わったときに残るもの | 納品された仕組み | 動いている仕組みと、直せる社員 | 動いている仕組みと、直せる社員 |
| 契約の形の例 | 請負が多い | 準委任・月単位が多い | 準委任・人月が多い |

費用の目安のうち、リモート中心の型は2026年11月に発表された公表料金の例、毎日現場にいる型は当社が商談でお客様から伺う他社の見積の範囲です。

月30万円台の型は、作るものが決まっていて、社内に直せる人がすでにいる会社にとって合理的な選択です。毎日現場にいる型が向いているのは、課題が多く、急いで並行して進めたい会社です。その間にあるのが週1日現場に入る型で、何を作るかを一緒に決めながら、作る量が増えたら日数を増やす進め方がとれます。



## 06 外部のFDEと社内FDE育成の違いと組み合わせ方

依頼先を選ぶときには、外部に頼むか、社員を育てるかという選択肢も並べておくと判断しやすくなります。外部のFDEは、AIの会社のエンジニアが現場に入って仕組みを作る形です。社内FDEは、業務をよく知

る自社の社員が、AIを使って自部署の仕組みを作り、直し、周りに広げる形です。



| | 外部のFDE | 社内FDE |
|---|---|---|
| 作る人 | AIの会社のエンジニア | 業務をよく知る自社の社員 |
| 向いている場面 | 急ぎの課題、社内システムとの連携 | 毎月くり返す作業が部署ごとに多い |
| 作るものの例 | 社内システムとつなぐ仕組み | 下書き、集計、照合を行う自部署の道具 |
| 終わったあとの直し方 | 引き継いだ社員が直す | 作った本人が直す |
| 会社が用意するもの | 費用と受け入れの窓口 | 上司が出す業務時間と、育成の期間 |

社内FDEには、プログラムを書けることよりも、業務の例外や手順の理由を説明できることが求められます。作りたい処理を言葉で説明できれば、AIがプログラムを書く作業を支えてくれるからです。ただし、品質やお金に関わる最終の判断は、仕組みを作ったあとも人の役目として残ります。

**外部のFDE**
急ぎの課題と、社内システムとつなぐ仕組みを作る

＋

**社内FDE**
くり返す作業の道具を、社員が自分で作って直す

＝

**段階的に社内へ移す**
目の前の課題を片付けながら、直せる人を増やせます

両方を組み合わせる形もとれます。目の前の急ぎの課題は外部のFDEが開発し、並行して社内FDEを育てて、作った仕組みの直しを段階的に社内へ移していく進め方です。当社の社内FDE育成では、週1回・全12回の育成3か月と、本番の業務で使いながら直す伴走3か月を標準にしています。

## 07 自社に合う型を決める質問

依頼先を比べる前に、業務ごとに次の3つの質問に答えてみてください。1つの会社の中でも、業務によって合う型は変わります。

**質問1**
何を作るか決まっているか

**質問2**
直せる人を社内に残したいか

**質問3**
複数の部署や社内システムとつなぐか

**型が決まる**
業務ごとに頼み方を分ける

| 答えの組み合わせ | 合いやすい型 |
| --- | --- |
| 質問1が「はい」、質問2が「いいえ」 | リモート中心で開発する型 |
| 質問2が「はい」で、急ぎの課題は1つか2つ | 週1日現場に入る型から始め、作る量に合わせて日数を増やす |
| 質問2と質問3が「はい」で、急ぎの課題がいくつもある | 毎日現場にいる型 |
| 質問3が「いいえ」で、1つの部署の中で終わる小さな作業 | 社内FDEの育成 |

社内FDEを選ぶ場合は、もう1つ確かめておくことがあります。それは、上司が業務時間の2割ほどを3か月出せる社員が、その部署にいるかどうかです。時間を出せる社員がいなければ、まず外部の型で仕組みを作り、引き継ぎの段階で直し方を学んでもらう順番のほうが進めやすくなります。

## 08 業務ごとに型を採点する

候補の業務がいくつもあるときは、まず次の表で点数をつけ、点の高い業務から型を決めていきます。合計が10点以上で、失敗の影響が1点でないものから始めるのがおすすめです。

| 見る点 | 3点 | 2点 | 1点 |
| --- | --- | --- | --- |
| 頻度 | 毎日か毎週ある | 毎月ある | それより少ない |
| 1回の時間 | 1時間以上 | 30分以上 | 30分未満 |
| 手順 | ほぼ決まっている | 例外が少しある | 毎回判断が違う |
| 失敗の影響 | 社内ですぐ気づける | 関係部署に及ぶ | 取引先やお金に及ぶ |

| 候補の業務 | 頻度 | 時間 | 手順 | 影響 | 合計 | 質問1〜3の答え | 合う型 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 記入例：受注データと出荷予定の照合 | 3 | 3 | 3 | 2 | 11 | はい・はい・はい | 週1日現場に入る型 |
| 記入例：仕入先の見積を比べる表づくり | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 | はい・はい・いいえ | 社内FDEの育成 |

## 09 見積を比べるときに確かめる項目

型が決まったら、次は各社の見積を同じ物差しで読み直す段階です。次の表の項目のうち、見積に書かれていないものは推測で埋めずに、各社に同じ質問を送って回答をそろえます。

| 確かめる項目 | 見積でよくある書き方 | 聞いておく質問 |
| --- | --- | --- |
| 作業の範囲 | 「要件定義の支援、開発、テスト」 | 業務の確認と優先順位づけは含まれますか。対象の業務はどこまでですか |
| 現場に来る日数 | 「オンサイト」「常駐」「訪問は別途相談」 | 月に何日来ますか。日数を増やすと月額はどう変わりますか |
| 引き継ぎの成果物 | 「操作説明書」「ご要望に応じて別途」 | 手順書と設計の記録は含まれますか。ソースコードと著作権はどちらに残りますか |
| セキュリティ審査の扱い | 「貴社の規定に従う」、または記載なし | チェックシートへの回答と審査への対応は作業に含まれますか |
| 改善・保守の扱い | 「改修は別途見積」「保守は別契約」 | 契約期間中の改修は含まれますか。終わったあとの保守の費用はいくらですか |
| 契約形態 | 「一括請負」「技術支援契約（準委任）」 | 請負なら検収の条件、準委任なら精算の幅と解約の条件を教えてください |
| 追加でかかる費用 | 「交通費は実費」「超過分は時間で精算」 | 6か月で払う金額の見込みと、追加費用が出やすい項目を教えてください |

準委任は作業の時間に対して支払う契約で、何を作るかを決めながら進める支援に向いています。請負は完成した成果物に対して支払う契約なので、作るものが決まっている開発に合う形です。

## 10 自社の効果を1分で試算する

採点で点数が高かった業務について、効果の大きさを試算してみてください。上の方に話すときの出発点になります。

| 項目 | 記入例 | 御社の数字 |
|---|---|---|
| ①1回の作業時間 | 1時間 | |
| ②年間の回数 | 240回 | |
| ③同じ作業をしている人数 | 3名 | |
| ④減らせる割合（まずは控えめに） | 5割 | |
| ⑤時給 | 3,000円 | |
| 減らせる時間（①×②×③×④） | 年360時間 | |
| 金額に直すと（上の時間×⑤） | 年108万円 | |

1時間 × 240回 × 3名 × 5割 = **年360時間** × 3,000円 = **年108万円**

記入例の数字は、計算の仕方を示すためのものです。④の割合は最初は仮の数字になるので、支援が始まってから導入前後の時間を測り、実際の数字に置き換えていきます。

## 11 つまずきやすい落とし穴

依頼先を選ぶ場面では、次のような判断の行き違いがよく起こります。

| 起きやすいこと | 先に決めておくこと |
|---|---|
| 月の金額だけで比べて選び、業務の見直しや審査の対応が別料金だと後から分かります | 見積の項目を同じ物差しにそろえ、6か月で払う金額の見込みで比べます |
| 契約してからセキュリティ審査を始め、1か月ほど作業が止まります | 見積の段階で審査の扱いを確かめ、資料を契約前に情報システム部門へ渡します |
| 引き継ぎの成果物が契約に書かれておらず、終わってから誰も直せなくなります | 手順書、設計の記録、ソースコードの扱いを契約書に書き、直す担当の社員を決めます |

## 12 当社の支援事例から

当社はこれまで100社以上の企業に、AI研修、業務AIの開発、現場に入り込む伴走支援を提供してきました。ここでは、外部のエンジニアが常駐して作った例と、社員が自分で作った例を1つずつ紹介します。

1つ目は、持株会社グループ（事業会社3社、人事総務部 約28名）の支援です。勤怠、給与、出向のデータが会社ごとにばらばらだったため、週1回の常駐で、社員の方と一緒に仕組みを作りました。勤怠データの3社への振り分けは約630名分を自動にし、出向者の確認で人が目で見る件数は、実データで58件から36件に減っています。しきい値や監視する項目は、人事のチームが設定シートで自分たちで変えられるようにして引き継ぎました。




出向者の確認で人が目で見る件数（持株会社グループの実データ）。

2つ目は、大手決済サービス事業者での、社員が自分で作る形の伴走です。非IT部門の社員が、当社のコンサルタントによる週1回1時間・全6回の伴走を受けながら、自部署の仕組みを作りました。伴走する側は成果物を作らないことを原則にしており、のべ11部門のすべてが、支援期間内に動く成果物を完成させています。

2つの例は、急ぎでシステムとつなぐ仕組みは外部が一緒に作り、くり返す作業の道具は社員が作るという、前の章の組み合わせ方に当たります。どちらの例でも共通しているのは、最後に社員が自分で直せる状態にしてから手を離したことです。

### 当社の週1日の常駐の中身と費用

当社のFDE型の支援は、週1日以上、当社のエンジニアが御社の現場に入る形を基本にしています。常駐の日に行うのは、業務を見て話を聞き、その場で一緒に仕組みを作ったり直したりすることです。最初の2週間で業務を確認してAIでやりたいことに優先順位をつけ、1つ目の仕組みを動かすところまで進めます。そのあとは、次に作るものを3か月ごとに見直していきます。支援のあとに残るのは、本番で使われている仕組み、業務が変わったときに自分で直せる社員、使い方と直し方を書いた手順書と設計の記録の3つです。

当社の週1日の常駐は、月35万円（税別）から承っています。金額が変わるのは、主に現場に入る日数、対象の部署の数と社内システムとつなぐかどうか、セキュリティ審査や権限の調整にかかる手間の3点です。見積は業務の内容と関わり方を伺ってから1つの金額でお出しし、効果の試算とAIエンジニアを1人採用した場合の費用も並べてお示しします。契約は準委任・月単位で、最初は3か月から始められます。

## 13 上の方に話すための材料

社内で依頼先を決めるときには、次のような質問を受けることが多いはずです。あらかじめ答えを用意しておくと、話を進めやすくなります。

| 相手 | 聞かれそうなこと | 答え方の例 |
|---|---|---|
| 経営層 | なぜ一番安い見積にしないのか | 安い見積は、作るものが決まっている前提の金額です。今回は何を作るかから決める必要があるので、その作業が含まれているかで比べました |
| 経営層 | 毎日来てもらうほうが早いのではないか | 急ぎの課題がいくつもあれば毎日の型が合います。今回は急ぎが1つなので週1日から始め、作る量が増えたら日数を増やします |
| 情報システム部門 | セキュリティ審査はどうするのか | 見積の段階で各社の対応を確かめました。審査の資料は契約前にお渡しし、並行で進めます |
| 情報システム部門 | 作ったものは誰が保守するのか | 手順書と設計の記録を引き継ぎの成果物として契約に書き、直す担当の社員を決めます |
| 経理・法務 | 準委任と請負のどちらで結ぶのか | 何を作るかを決めながら進めるので準委任にします。ソースコードと著作権の扱いは契約書で確かめます |

話を切り出すときには、目的、対象の業務と選んだ型、比べた見積と各社の回答、いただきたいもの（費用、一緒に作る社員の時間、セキュリティ審査）、3か月後の報告の5項目を1枚にまとめると説明しやすくなります。この1枚はWordでも用意しています（https://ai-worker.net/wp-content/uploads/2026/11/aiworker-all-fde-selection-setsumei.docx）。

## 14 今週やること3つ

依頼先を決める前に、まず次の3つを試してみてください。どれも半日もかかりません。

| 順 | やること | 分かること |
|---|---|---|
| 1 | 自部署の業務を5つ書き出し、採点表と3つの質問で答えを埋めます | どの業務に、どの型が合いそうか |
| 2 | 手元の見積を、確かめる項目の表に沿って読み直します | 書かれていない項目と、各社に聞く質問 |
| 3 | 情報システム部門に、社外の支援を入れるときの審査の流れを聞きます | 契約から作業開始までにかかる期間 |

## 15 依頼先を決める前のチェックリスト

次の項目のうち4つ以上に当てはまれば、見積を比べて依頼先を決める準備が整っていると考えられます。

- 対象にしたい業務と、今かかっている作業時間を書き出している
- 業務ごとに、3つの質問への答えを決めている
- 各社の見積を、同じ項目でそろえて比べている
- セキュリティ審査の流れと期間を、情報システム部門に確かめている
- 引き継ぎの成果物とソースコードの扱いを、契約書で確かめる段取りがある

## 出典

| 資料 | 発行元・年 | 使った図表 |
|---|---|---|
| DX動向2026 | 独立行政法人 情報処理推進機構（IPA、2026年） | 図表4-1（54ページ）、図表4-2（55ページ） |
| DX動向2025 | 独立行政法人 情報処理推進機構（IPA、2025年） | 図表2-13（42ページ）、図表2-14（43ページ）、図表2-16（45ページ） |
| 中小企業向けFDE型サービスの公表資料 | 2026年11月4日の発表 | 開発の料金（月33万円（税込）から） |

毎日現場にいる型の費用の目安は、当社が商談でお客様から伺った他社の見積の範囲で、公的な統計ではありません。架空データの検証は、当社が2026年11月に実行した結果です。

## 当社について

株式会社AIworkerは、業務に合わせたAIの開発、法人向けAI研修、現場に入り込む伴走支援を行っています。FDE型の支援（AIworker FDE）は、当社のエンジニアが週1日以上御社の現場に入り、社内システムとつなぐところまで作って社員に引き継ぐ形です。社員を育てる社内FDE育成プログラム（育成3か月＋伴走3か月）と組み合わせることもできます。

採点表や見積の比較を進めてみたものの、どの型が合うか迷う場合は、御社の業務と手元の見積を30分で一緒に整理することも可能です。

ご相談: https://ai-worker.net/contact/